



新しい命が もう一つのいのちを救う 特定非営利活動法人 兵庫さい帯血バンクだより

第30号
2018
11



ご挨拶

特定非営利活動法人 兵庫さい帯血バンク

理事長 後藤 武

皆さまには、平素から、兵庫さい帯血バンクの事業にご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、兵庫医科大学からバンク事務所の明渡し申入れを受け、それから約1年半が経過しました。この間、各方面から多くの暖かいご支援をいただき、神戸市内の日本赤十字社兵庫県支部と兵庫県赤十字血液センターとの合同社屋内への移転が着々と進んでおりますこと、心から、感謝の意を表させていただきます。

現在のところ、さい帯血の採取・調整・保存を中止し、出庫も停止していますが、移転先の工事が終了しましたので、必要な機器類などを運び込んだ後、10月末までに新事務所への移転を完了する予定です。そして、検査体制などを整えて厚生労働省の査察を受けますが、許可が下り次第、今年度中のできるだけ早い時期に業務を再開したいと考えています。

なお、バンクの運営に関しましては、昨年度は、お陰様で、例年通りのほぼ満足すべき収支結果を得ることができました。しかし、今年度は休業による経営悪化が見込まれ、赤字基調は来年度以降も続くものと予測しています。そのため、運営体制のさらなる充実に向けて改選されました役員ともども、会員のさらなる獲得に努めますとともに、新たな委員会を設置して、さい帯血採取医療機関の拡充策を検討・実施し、採取さい帯血の増量とその質の一層の向上を図りたいと考えております。また、研究用さい帯血の提供にも力を入れ、神戸市内への移転を機に、神戸医療産業都市や神戸大学などの研究機関とも連携を強化していくこととしています。

最後になりますが、兵庫さい帯血バンクはNPO法人として、さい帯血の提供を通じて社会貢献を続けていきたいと思っておりますが、ボランティア活動という性格上、皆さまのご支援・ご協力がなければ運営は行き詰まってしまうと思います。今後とも、運営へのご理解のほど、何卒、よろしく願い申し上げます。



街頭募金活動



兵庫さい帯血バンクの移転にあたり

副理事長 甲斐 俊朗

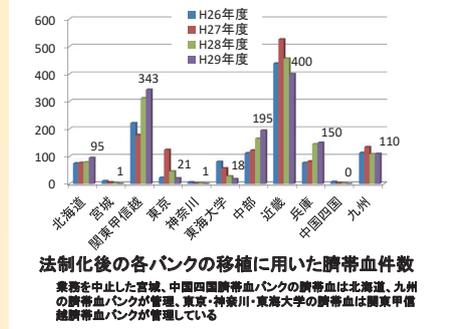
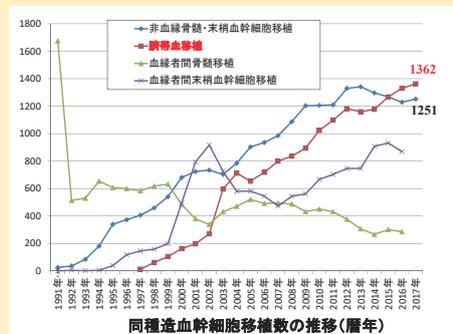
1995年わが国で第2番目に設立された臍帯血バンクである兵庫さい帯血バンク(設立当初は近畿さい帯血バンクとして活動)が、諸般の事情により西宮市の兵庫医科大学内から神戸市のHAT神戸にある日赤兵庫県支部・兵庫県赤十字血液センター内へ移転します。

9月末に臍帯血供給・採取・調製保存業務を終了し、引越しが始まりました。

ドナーに負担なく幹細胞が採取でき(臍帯血を採取していただいている採取医療機関の方々の負担はかなりのもので今後の大きな課題ですが)、患者さんの良い状態のときに速やかに移植が出来る臍帯血の造血幹細胞移植への応用は、良質の臍帯血の保存・移植技術の向上と相まって飛躍的に増加しました。現在までに、16,000人以上、また、近年は年間1,300人以上の患者様が臍帯血移植を受けておられ骨髓バンクを介した移植を上回っています。

当バンクも、設立以来、1,900本余り、法制化(2014年)以後は536本の臍帯血を提供して参りました。現在、748本の臍帯血の公開を一時休止、利用できなくなっており移植を待っている患者様、移植医療機関の方々には多大なご迷惑をおかけしていることを心苦しく思っています。

移転が完了し、設備・機器の点検整備の後、厚生労働省の認可が得られましたら速やかに新規事業所で臍帯血供給業務を再開する予定ですのでよろしくお願いいたします。



日赤合同庁舎



事務室・機械室施工風景



安全キャビネット搬出



液体窒素タンクの温度確認作業中



フリーザー搬入

採取施設紹介

高橋産婦人科クリニック

院長 高橋 秀元



臍帯血の採取はいつも時間との戦いです。臍帯を切断して、児が産まれたらすぐに臍帯血の採取にかかります。消毒は十分か、母や子の状態に異常はないか、採血針は血管から飛び出していないか、ちゃんと臍帯血はバッグ内に流入しているか、いろんなことを考えながら採血します。サポートしてくれる周りのスタッフも大忙し。臍帯血の流入は止まっていないか、今何グラム取れているのか、攪拌を忘れていないか、いつも気を配っています。

協力してくれる患者さんも事前の準備が大変です。何ページにもわたる同意書とチェック事項をスタッフと一つ一つ確認してくれています。

こんな忙しい思いまでして、採取するのはなぜだろう。なぜスタッフも患者さんも協力してくれるのだろう？

私たちが臍帯血バンクに協力を開始したのは、故人である父の代からです。2000年11月にご縁があり、当時兵庫医大の輸血学教授であられた原 宏先生から勉強会の一環として臍帯輸血に関する講義をしていただき、理解を深めました。また、ほぼ同じ頃神戸ソプロチミストからも会員であった母を通して協力の依頼があり、翌年3月より採取を開始しました。

当初は試行錯誤の連続だったと聞いています。出産直後はどうしても児と母体のケアに手を取られるため、いざ採取しようと取り掛かったら、すでに臍帯から血液が流れなくなっていたり、少しでも多く取ろうと時間をかけすぎてカテーテル内で凝固塊ができてしまったり…。それでも手順を整備し、手技を改善することで採血量も増えてきました。少しでも多くの臍帯血を取ろうと現在でも工夫を重ねています。患者さんへの広報もマザークラスで説明の時間を用意したり、ホームページでの紹介も行っています。

巡回勉強会

平成29年10月～30年1月



H29.10/3 大森産婦人科医院



H29.10/16 オカ・レディース・クリニック



H29.10/19 高橋産婦人科クリニック



H29.10/23 南川クリニック



H29.10/30 西神戸医療センター



H29.10/31 マムクリニック



H29.11/1 あさぎり病院



H29.11/7 関西労災病院



H29.11/27 久保みずきレディースクリニック



H29.12.1 母と子の上田病院



H29.12/4 尼崎医療生協病院



H29.12/12 西川産婦人科



H29.12.26 兵庫県立西宮病院



H30.1/19 済生会兵庫東病院



移植病院手記



成人悪性血液疾患における 臍帯血移植

兵庫県立がんセンター

血液内科 村山 徹

この度は兵庫臍帯血バンクの移転が無事に決まりましたとおめでとうございます。今後のさらなるご発展を祈願しております。

兵庫県立がんセンターは、その前身が兵庫県立成人病センターであったため、小児科はなく、原則として成人の悪性疾患を扱う病院です。血液疾患も18歳以下の患者は兵庫県立こども病院にお願いしております。血液内科は1987年に創設され、現在病床33床、うち無菌病床5床、準無菌病床8床で成人血液悪性疾患の診療にあたっております。1989年より血縁者間造血幹細胞移植、1991年より自家造血幹細胞移植、1992年より非血縁者間造血幹細胞移植を開始しております。現在まで血縁者間造血幹細胞移植178例、非血縁者間造血幹細胞移植168例、自家造血幹細胞移植178例を行っております。臍帯血移植については2000年から開始しております。成人が対象の病院であるため、細胞数の問題があり、移植細胞のソースとしての優先順位は下がってしまいます。2018年9月末まで35例の臍帯血移植を行っているものの、年間平均では2例程度に留まっています。成人の移植細胞ソースはHLA一致血縁者ドナー、HLA一致非血縁者ドナーを基本に、HLA一部不一致血縁/非血縁ドナー、臍帯血などがある。最近ではHLAが半分しか一致していないハプロ移植を移植後に大量シクロフォスファミドを入れることによって移植片対宿主病を抑えられるpost CY移植が行われるようになり、さらに移植細胞ソースが増加してきています。当院でもpost CYハプロ移植を取り入れていっております。その中で当院における臍帯血移植はどうしてもドナーが見つからない症例の移植時とともに、造血幹細胞食後の拒絶・生着不全時の緊急再移植時に行われることが多いです。当院の35例中4例が拒絶・生着不全時の緊急再移植時です。当院での造血幹細胞移植の最後の砦となっております。そのような悪条件で行う移植であっても、35例中8例は5年以上の長期生存をされており、治療効果も期待できる移植です。今後も臍帯血は重要な移植細胞ソースであり続けると考えられますので、移転後も変わらぬ臍帯血供給よろしく願いいたします。



移植体験者 手記



いのちのバトンを受け継いで

臍帯血移植経験者 若尾 直子

46歳の時に乳がんの告知を受け、左乳房全摘及び腹直筋皮弁同時再建の経験をもつ私は、がんに対する想いが人一倍強いのか、がんへのスティグマの払拭や、がん対策を充実させたい想いで、がんアドボケート活動を行っていました。そんな中、2016年の年頭の誓いは、がん対策を公共政策として充実させるための勉強をすることと、体力をつけることでした。大学院の社会人枠で公共政策を学び、毎日1000m泳ぐことを目標として頑張っていた矢先、呼吸困難に陥り、数日のうちに横になって眠ることもできないようになってしまいました。二人に一人ががんになるといわれている時代、すでにそのノルマは果たしているので、自分が新たながんになるなんて思ってもいませんでした。それに、呼吸困難と「がん」は全く結びつかずなかつたし…。でも、運の良いことに、私の肺のレントゲンを撮ってくれたかかりつけの医師が、ただことではないことを見抜き、がん診療連携拠点病院の呼吸器内科の受診を促してくれたのです。そうそうに受診し、CTで診てみると、縦隔に巨大な腫瘍ができていて、胸水が心臓や肺を圧迫するほど溜まっていた。そこですぐに血液内科の医師(現在の主治医)にバトンタッチされたのですが、このバトンタッチも絶妙のタイミングでした。主治医は「時間との勝負」という表現で私の状況を説明してくれ、病名は「急性リンパ芽球性リンパ腫」といわれました。その時の真剣な説明と真摯な対応に、心から主治医が信頼でき、すぐに治療に入りました。主治医からは、化学療法で繋いでいく方法と、造血幹細胞移植で完治を目指す方法を提案されました。当然、完治を目指したいと思い、造血幹細胞移植の説明をお願いしました。そしてHLAを調べることとなり、私と2人の妹、3人の息子の6人分のHLAを調べながら、どの移植方法がいいのかと迷いました。HLAの結果が出たとき、フルマッチはいませんでした。しかし、息子の一人が「僕のをを使って」と強く申し出てくれたのです。ハプロでお願いしようか…。とても迷いました。その時主治医がすすめてくれたのが臍帯血移植でした。ドナーに負担がかからず、しかもHLAもフルマッチが選択でき、GVHDも軽いことが多いと説明を受けました。私は二つ返事で主治医にお願いし臍帯血移植を受けました。25mlの臍帯血移植はあっという間に終わりました。無菌室で過ごした約3週間、生着だけを願っていました。そして白血球等の増加が認められ、「生着したよ」といわれた時はうれしい気持ちでいっぱいでした。でももっと嬉しかったのはその後でした。臍帯は、お産の時、いわゆる「へその緒」としてお産の記念に取っておいてもらうものくらいにしか思っていなかったのですが、私のもとにたどり着くまでには想像を超える皆さんの努力があることを知ったからです。臍帯血を提供してくれたママと赤ちゃんはもとより、臍帯血の重要性をママに説明して下さる説明ボランティアさんがいて、採取した臍帯血を入念に調べHLAごとに保存してくれる先生方がいて、その情報を的確に発信してくれるシステムがあり、そこから私にぴったりの臍帯血を選んでくれた主治医がいて、それを私のために慎重に運んでくれた運送係の方がいて、私の体調を十分に考慮してくれた上で移植を行ってくれるという壮大な作業を行ってくれる皆さんがいる。私の命のバトンが繋がったのです。今、臍帯血移植から約2年。主治医にはいろいろお世話になっていますが大きなトラブルもなく強いGVHDに悩まされることもなく、私にぴったりの臍帯血を提供してくれた関係者の皆さんに心より感謝しています。臍帯血事業はとても大変なプロジェクトだと思います。自分が体験し、とても重要な命のバトンを繋ぐ事業だと実感しています。この事業に関わってくださる皆さんに心より感謝申し上げます。



甲斐善光寺にて



妹と桜を見に

受賞

◆ 社会賞 H30.11.7



受賞される理事長



後藤理事長と甲斐副理事長

◆ 兵庫県献血功労感謝のつどい H30.8.30



マムクリニック上田真太郎先生



西神戸医療センター川北かおり先生と理事長



受賞される川北先生

◆ 第3回チャリティコンサート 平成30年9月14日 中華会館東亜ホールにて



あいさつ 甲斐副理事長



司会者の本田美奈子さん



アコーディオンの後藤ミホ子さん



久保さんと後藤さん



津軽三味線 久保比呂志さん

◆ 合同研修会 平成30年2月1日



理事長挨拶



四方課長挨拶



西宮ホワイトライオンズ水田会長



耀きグループ白根知子さん



久保みずぎ 渡邊美智さん



移植体験者 若尾直子さん



高知大 前田教授



丸尾副理事長閉会挨拶

支援団体紹介

○国際ロータリークラブ



国際ロータリークラブは、貧困・病気・災害等を対象とした「人道的プログラム」と青少年を対象とした「教育的プログラム」で「世界でよいことをしよう」をしています。「臍帯血」に関しては、毎年「チャリティゴルフ」又は「チャリティコンサート」を実施しているほか、過去に女子中高生を対象に「臍帯血に関する絵本の贈呈」や「講演」「パナーの協力」等を行っています。

ロータリークラブ内においても「臍帯血」に関する広報活動を行っています。

○西宮ホワイトライオンズクラブ

当クラブは時計塔・ベンチ寄贈・東北震災被災地に桜植樹・ユニセフや神戸マラソンボランティア・視覚障害者支援・青少年育成・献血活動等幅広く活動しています。その中で最も力を入れている兵庫さい帯血バンク支援活動ではチャリティバナー、ゴルフ大会を通じ多くの方にさい帯血移植の必要を伝へ17年になります。貴バンクの更なる発展の為微力ではありますが尽力を尽くして参ります。



○ライオンズクラブ国際協会335-A地区

ライオンズクラブは、世界最大の奉仕団体です。「We Serve(我々は奉仕する)」をモットーに、よりよい社会の実現を目指して、環境・文化・青少年の教育・健康・社会福祉など多方面で、人道奉仕活動を行っています。335-A地区では、社会福祉委員会が中心となり、「さい帯血推進セミナー」を開催するなどの広報活動を行っています。今後もさい帯血の重要性を多くの人に理解してもらえよう活動をしていきます。



ボランティア

○大森スマイルグループ

私たちは高砂の大森産婦人科から電車を乗り継いで臍帯血をバンクに届けています。搬送ボランティアはH19年12月に3人からスタートし、現在7人で当番表を基に楽しく頑張っています。

来年2月の搬送からバンクの場所が変わるので、また気持ちを新たに皆で協力し合ってこれからも搬送を続けていきたいと思っています。



○耀き

「耀き」は、平成15年よりさい帯血の搬送を行っていましたが、平成24年、宝塚市の採取施設がなくなったため搬送を休止し、説明ボランティアのみを行ってまいりました。いつかまた搬送活動ができることを願って6年間経過しておりましたが、今年バンク事務局から、西宮と塚口にある産婦人科のさい帯血を搬送することを提案していただきました。搬送にぜひ協力したいと即答してくれた旧搬送メンバーで、8月より活動を再開することができました。

朝の「さい帯血があります。」の電話に心躍らせ、一人でも多くの患者さんが回復され、耀く日々を迎えられることを願いつつ、この活動に再び参加できる喜びをかみしめています。



兵庫さい帯血バンク役員一覧

理事長	後藤 武	理事	太田 稔 明	理事	玉田 はる代	参与	大谷 光 男
副理事長	甲斐 俊 朗	理事	井植 貞 雄	理事	内野 英 晃	参与	三戸 壽
副理事長	山田 秀 人	理事	杉村 和 朗	理事	木村 雅 子	参与	村山 徹
常務理事	小出 紀久男	理事	松岡 広	理事	田畑 富 子	参与	田中 敦 子
理事	明石 法 彦	理事	井本 しおん	理事	山下 万利子	参与	小阪 嘉 之
理事	堅田 博 行	理事	大江 与喜子	監事	大久保 博 章	参与	三木 均 伸
理事	高橋 隆 幸	理事	平井 みどり	監事	寺谷 進	参与	川真田 伸
理事	藤盛 好 啓	理事	中野 則 子	顧問	芦尾 長 司		
理事	三村 治	理事	渡邊 美 智	顧問	丸尾 猛		
理事	三上 喜美男	理事	北野 美智子	参与	米谷 収		

● 臍帯血採取医療機関紹介 ●

臍帯血の提供は、採取医療機関で出産をされる方をお願いをしています。

平成30年10月末 現在

採 取 医 療 機 関		住 所
1	地方独立行政法人 神戸市民病院機構	神戸市立西神戸医療センター 神戸市西区鞆台5-7-1
2	医療法人社団 憲樹会	オカ・レディース・クリニック 神戸市北区大原3-8-1
3		尼崎医療生協病院 尼崎市南武庫之荘12-16-1
4	医療法人社団 吉徳会	あさぎり病院 明石市朝霧台1120-2
5	医療法人社団 純心会	パルモア病院 神戸市中央区北長狭通4-7-20
6		兵庫県立西宮病院 西宮市六湛寺町13-9
7	医療法人社団 直太会	マムクリニック 神戸市北区有野町唐櫃3389
8		兵庫医科大学病院 西宮市武庫川町1-1
9	医療法人社団	高橋産婦人科クリニック 西宮市和上町6-22
10	医療法人社団 恵友会	久保みずきレディースクリニック 神戸市西区美賀多3-13-8
11	医療法人社団 直太会	母と子の上田病院 神戸市中央区国香通1-1-4
12		松岡産婦人科クリニック 神戸市北区緑町1-6-18
13	医療法人社団	大森産婦人科医院 高砂市伊保港町2-5-17
14	独立行政法人 労働者健康安全機構	関西労災病院 尼崎市稲葉荘3-1-69
15	医療法人社団 こうのとりの会	西川産婦人科 姫路市花田町一本松165-1
16	医療法人 三友会	なでしこレディースホスピタル 神戸市西区井吹台東町2-13
17	医療法人社団	南川クリニック 尼崎市塚口本町2-20-1
18	社会福祉法人恩賜財団	済生会兵庫県病院 神戸市北区藤原台中町5-1-1

● お 願 い ●

バンクへの財政支援をお願いしています。

現在、国庫補助金を中心とした運営をしておりますが、円滑な事業運営のために、皆様の暖かいご支援をお願いします。

平成19年3月に「認定NPO法人」に認定され、2,000円を超える寄付金については、税制上の優遇措置を受けることができます。



正 会 員：個人 1口 5,000円
 賛助会員：個人 1口 2,000円
 法人 1口 5,000円

ご寄付・会費の振込先は
 郵便振替 00930-8-37864
 兵庫さい帯血バンク

編集後記

だより30号をお届けします。

皆様の多大なるご支援により、無事移転することができました事をご報告いたします。ありがとうございました。

今後はさらに、さい帯血の保存数拡大に向けての広報活動に力を入れてまいります所存です。今後ともよろしくお願いたします。

広報委員一同

特定非営利活動法人 兵庫さい帯血バンク

事務局 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
 日赤合同庁舎4階
 TEL.078-221-0280 (事務局)
 TEL.078-221-0281 (技 師)
 FAX.078-221-0280
 URL:<http://www.saitaiketu.org>

発行日 平成30年11月1日
 発行者 後 藤 武